

(公印省略)

別政推第 4-0873号
平成27年10月6日

各部長
議会事務局長
教育長
教育参事
消防長
選挙管理委員会事務局長
監査事務局長
農業委員会事務局長
会計課長

） 殿

企 画 部 長

平成28年度予算編成方針について（依命通達）

このことについて、別府市予算事務規則第4条の規定に基づき、市長の命を受けて平成28年度予算編成方針を定めたので通知する。

平成28年度予算編成方針

(国の動向等)

わが国は2006年を境に総人口の減少というかつて経験したことのない時代に突入した。加えて、生産年齢人口が急速に減少する一方で、高齢者人口が増加する少子高齢化が本格的に進展している。

こうした事態に対して、政府は、昨年来、まち・ひと・しごと創生本部を設置し、「まち・ひと・しごと創生法」制定、「まち・ひと・しごと総合戦略」策定と、地方創生に本格的に取り組む姿勢を示すとともに、本年3月には「まち・ひと・しごと創生基本方針2015」に個別施策を盛り込み、具体的事業を推進する段階に入った。

しかしながら、人口減少には歯止めがかかっておらず、緩やかな回復傾向にあった合計特殊出生率は、平成26年に1.42と9年ぶりに低下し、出生者数も過去最低の100万3,532人と少子化が加速し、地方創生をめぐる状況は厳しさを増している。

国内景気についても、8月の月例経済報告では「景気は緩やかな回復基調が続いている。」とされるが、4～6月期の国内総生産（GDP）は前期比1.2%減（年率換算）と力強さを欠き、さらに海外景気の下振れなどリスクも抱え、先行きが見通せない状況である。

このような中、国の財政状況は、債務残高がGDPの2倍程度に膨らみ、なおも更なる累増が見込まれるなど極めて厳しい状況にあり、「経済財政運営と改革の基本方針2015」では、歳出全般にわたり、聖域なく徹底した見直しを進めるとされ、国の取組と基調を合わせ、地方に対しても厳しい歳出改革が求められることが見込まれる。

(本市の財政状況及び今後の見通し)

平成26年度決算では、市税収入が3年連続で減収となる一方で、歳出は過去最大の決算規模と増大し、特に人件費や扶助費などの義務的経費が歳出に占める割合は6割を超えている。さらに、経常収支比率は93.9%と前年度に比べ1.2ポイント改善したものの、常に90%を超え、財政構造は極めて硬直的な状況で、類似団体と比較しても財政力は低い。

投資余力が限られる中、今期の実施計画においても「し尿処理場春木苑」の建て替えをはじめ、数10億円規模の大規模改修や更新事業が集中して計画され、多額の財源が見込まれる公共施設の老朽化対策は本格化している。さらには、人口減少・少子化の一層の進行や中心市街地の空洞化など、中長期的にも多くの課題に対する財政需要があり、厳しい財政運営が続くことが予想される。

(予算編成の考え方)

人口減少や地域経済の停滞といった地域の構造的課題を克服するため、現在、べっぷ「感動・共創・夢」会議において、市内の産業、行政、教育、金融、労働、報道などの関係者と行政がまちづくりの当事者として危機意識を持ち、将来の別府を本気で考え、議論を重ねている。

その議論の結果を踏まえ、別府の未来を共創する指針として「別府市総合戦略」を10月末までに策定する。

平成28年度予算は「別府市総合戦略」の取組の第一歩となる。

地方創生に向けた取組は緒についたばかりであるが、人口減少の克服に残された時間は少なく、将来世代に負担を先送りしないよう可能な対策から直ちに実行し、加速していく必要がある。

停滞する地域経済を前進させ、次世代を担う子どもたちが誇りを持てる20年、30年先の別府の未来を創るという強い意志のもと、従来の慣例にとらわれず、いまの別府市に何が必要か、別府市民が何をいま求めているかという原点に立ち戻り、時代の変化を捉えた新たな施策への転換をしていかなければならない。

明るい未来を切り拓けるかどうか私たちの「知恵と力」、そして、組織の力量が試されている。職員それぞれが「人口減少」の危機感と「地方創生」に向けた強い決意を共有し、組織全体で「知恵と力」を結集して、力強い流れを生み出さなくてはならない。

こうした考え方の下、平成28年度予算編成に当たっては、地方創生など重要な施策を強力に推進するため、3億円の予算特別枠「べっぷ創生加速枠」を設け、『まちをまもり、まちをつくる。「べっぷ未来共創予算」』として、次の方針に基づき編成する。

<基本方針>

1 市政の重要な施策へ重点配分

経常的経費のシーリング設定に伴う減算額（前年度予算の義務的経費を除く経常的経費に100分の10を乗じた額）及び「まち・ひと・しごと創生事業費」が地方財政措置されたことに伴う平成27年度地方交付税の増加分をもとに予算特別枠「べっぷ創生加速枠」を設け、「重点的に取り組む項目」に重点配分する。

2 市民・現場の声を的確に反映した市民生活重視・現場重視の予算

市民から信頼される市役所へと進化するため、市民との協働をより一層推進するとともに、市民の声・現場の声を的確に反映した市民生活重視・現場重視の予算を編成する。

3 「やる気と工夫のゼロ予算事業」の推進

予算事業と一体として施策の相乗効果を高めるため、市民との協働の手法の導入や実施手法の工夫などにより「やる気と工夫のゼロ予算事業」を推進する。

4 具体的な成果目標の設定

具体的な成果目標の明示とPDCAサイクルを確立し、成果重視の視点に立った予算を編成する。

5 既存事業の見直しによる新たな施策の展開

緊急的に取り組むべき重点事業を明確にする一方、施策全般にわたり行政ニーズの変化により効果が乏しくなった事業については制度の根幹にまで遡り、積極的かつ大胆な見直しを行い、財源を捻出することにより新たな施策を展開する。

6 財源の確保に向けた取組の強化

自主財源の乏しい財政構造を認識し、市税や各種使用料等の確保や国・県の補助制度の活用はもとより、各種団体の助成金等のあらゆる財源を最大限に活用する。

<重点的に取り組む項目（重点項目）>

平成28年度予算編成において重点的に取り組む項目は以下のとおりとし、別枠の予算特別枠を設けて推進する。

1 しごとの創生、ひとの創生、まちの創生を実現する取組 [地方創生]

別府市総合戦略の基本目標である以下の項目の実現に取り組む。

(1) 資源（ひと・温泉）をいかして新たな価値を創り、儲かる別府に進化する。

(2) 多様性と受容性をいかして、別府に新しいひとの流れをつくり、受け入れる。

(3) ひとを大切に、別府で子どもを産み、育て、生きる。

(4) ひととまちをまもり、地域と地域が連携する。

2 産業・歴史・伝統・文化を進化させる取組 [地域資源]

別府の宝である固有の地域資源の価値を再認識し、「徹底的に磨く」ことにより、まちをまもり、次世代に誇れるまちの創造に取り組む。

3 安全・安心なまちづくりへの取組 [安全・安心]

市民の生命と生活を守るため、防災力及び防犯力の強化に取り組む。

4 スポーツや観光の振興など賑わい創出への取組 [賑わい創出]

市の魅力を世界に発信するため、2019年ラグビーワールドカップ及び2020年オリンピック・パラリンピックのキャンプ地誘致や世界温泉サミットの誘致に取り組む。